



xhe

Daniel Kok (SG) & Miho Shimizu (JP)

SYNOPSIS

xhe は彼でもなく、彼女でもなく、それでもない。「ジー」または「ジ (j'y、フランス語)」と発音するxheは、起こりうるもの、奇妙なもの、または多様性の代名詞であり、正方形と蝸の間を行き来するような形である。

「xhe」において、ダニエル・コックと清水美帆は、どのようにして一つの身体が既に多様性の表れであるのか、探求している。つまり、一人は常に、そして既に他者であり、大勢である。長時間に渡るパフォーマンスは、インスタレーション、ダンス、コンサートなど、様々な様式を振り付けの要素として織り混ぜたものであり、多くの国際的なアーティストと協働しながらこの掴み所のない形を追求している。

一緒に時間を過ごすことで、私たちは共に奮い立ち、発見し、受け入れ、さらにはxheそのものになりたいと思っている。



「オーランドーはこれまでこの本に書いてきたものよりもずっとたくさんの自分を持っているのであるが、伝記というものはそのうち六つか七つについて記せば出来上がり、と考えられている。しかるに、ひとり人間は優にその千倍もの自己をもっているのだから...われわれはいろいろなく自分>でできており、それが給仕が片手で捧げ持つ皿のように重なりあっていて、それぞれにお気に入りの場所とか、共感とか、ささやかな約束事や権利を持っているから...雨の日でないと来ないもの、緑のカーテンの部屋だけ、ジョーンズ夫人がいけない時だけ...なかには無茶苦茶に変てこでとても活字にできない自分だってあるのです。」

「オーランドー」ヴァージニア・ウルフ作、杉山洋子訳からの抜粋



写真：鈴木竜一郎

CREATIVE TEAM

Concept & Choreography:	Daniel Kok (Singapore/Berlin)
Visual Artist:	Miho Shimizu (Tokyo)
Dancers:	Karol Tyminski (Berlin/Warsaw), Daniel Kok
Sound Composition:	Filastine & Nova Ruth (Barcelona)
Graphic Design:	Melvin Tan / CURRENCY (Singapore)
Dramaturge:	Lilia Mestre (Brussels)
Producers:	CultureLink (Singapore)
Technical Staging Manager:	Yap Seok Hui (Singapore)

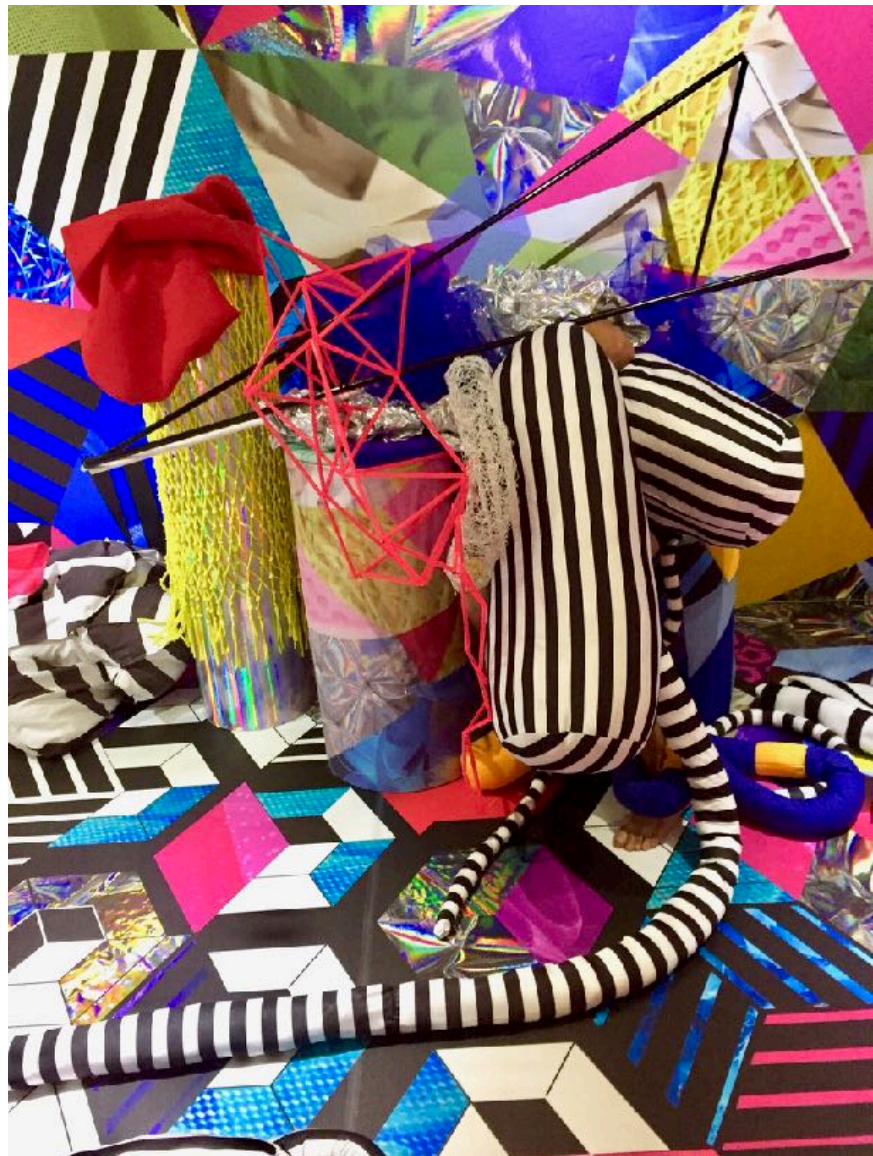
CONCEPT

おそらく公衆／観客というものは、単一の身体も複数の身体も同様に相容れないもので構成され、常にディストピアな状態にあり続けてきた。共有する視覚空間の中で鑑賞する演劇パフォーマンスは、決して普遍的な表現だとはみなされることはない。鑑賞の対象として、ダンサーは常に様々な見方をされ、様々な期待や要望に応えている。

「xhe」は鑑賞に関わる作品である。通常「観賞 (Spectatorship)」という言葉は、単一の主体を見つめている状態、つまり、認識と知覚のプロセスとしての「熟視」を意味している。それに対して「鑑賞 (Audienceship)」は、人々が観客として集まっている社会文化的なルールと状態を指している。観客の様々な見方や要望に意識的になること、つまり観客が実は様々な異なる身体の集合体であるということ意識することで、観賞者はある経験の普遍的な結論を描くのに、一つの見方では不十分であることを認識するだろう。そこでのパフォーマンスとの関わり方は、観客の体験の全貌を掴むことは不可能であろう多様な体験の存在が前提となり、観賞者は自分以外の様々な有り得る現実について考察し始めるのである。

同様に、ダンサーはもはや一つだけの意味を体現しようと努める必要はない。一度に複数の視点を求める見方を引き出すために、また、観客の多様性を反映するためには、ダンサーは自らを単体でありかつ複数のもの、そして反発的な自己あるいは相違の形態、言うなれば個を超越したもの (trans-individual) として捉える必要がある。作品／パフォーマンスは、矛盾するものも含む多彩なアイデンティティーを持ち、様々な立ち位置を意識してお互いを協調させたり反発させる。

「xhe」では、私たちはブリコラージュ的な言語を採用し、一度に異なる視覚体験を引き起こすために、実験的に様々な形状を混ぜ合わせている。どうすればグラフィックの図柄が動きの要素となりうるか。どのようにしたらダンスが抽象的なオブジェに命を吹き込むことができるのか。素材の音とは何か。私たちはギャラリーや劇場、そしてコンサートでの時間の過ごし方を比較する。他では見つけることのできない、この美的空間の中に私たちが求めているものは何だろうか。



DEVELOPMENT

2016年8月から2017年12月にかけて、ダニエル・コックと清水美帆は日本、シンガポール、ベルリンでの制作を経て「xhe」を発展させていった。

当プロジェクトはナショナル・アーツ・カウンシル（シンガポール）の製作補助金を受けている。

城崎国際アートセンター（日本）には、2度に渡りレジデンス・プログラムに参加、滞在制作の機会をいただいた。シンガポール政府観光局によるSingapore Inside Out プロジェクトでは、BANK Gallery gallery（東京）で作品を試す貴重な機会を得た。また、The Japan Foundation Asia Centerのアジア・フェローシップ・プログラムからは、清水のシンガポール滞在への支援を受けた。

この過程で、私たちは他のコラボレーターと関わり、徐々に制作チームを形成していった。

2つのワーク・イン・プログレスを実施。一つはGoodman Arts Centre（シンガポール）、もう一つはベルリンのHZT UferstudiosでのSODA Works Festivalで行った。



2018年、プレミア公演に向けて制作をしている。

「xhe」は2018年10月にEsplanade、Theatres By The Bay（シンガポール）で開催されるda:ns Festivalのコミッション作品。また、Performance Space（シドニー）からはパートナーとして、さらなる制作のための助成を得て、毎年そこで開催されているLive Works festivalで上演する予定でいる。